

## 婦女会

藩政時代から寺院を中心に尼講があり、法話を聞いたり仏事の台所の世話をすることが楽しみとしていた。

一般婦人が社会的に自発的に活動する婦女会が、明治中期から大正期に結成されてからで、婦女会は地縁的な婦人団体で現在の地域婦人会にあたる。大正十一年十一月に南山田婦女会が結成され、初代会長に金戸の中川かすいが就任した。昭和二年には盛田久子が会長に就任した。昭和四年には松田千鶴が副会長に就いている。

活動としては村長や学校の女子教員があたり、婦徳を向上させ時代に適合する合理的な生活を普及することを目的としていた。南山田地区では大正七年頃より婚礼葬儀などの無駄な費用や無益の経費の削減をめざす改善運動が進められていたが、婦女会の結成や会員の寄付をまつものが多く、会長や役員に負担がかかることから、大正十四年田島きよ会長から会費制を導入

し会員当たり二十銭とした。また会員中より三十名の役員を互選しての運営を確立した。行事も善行者の表彰、優良婦人会の視察などを新たに実施した。鼻緒の製作に従事して売上金を運営に充てるなども試みたという。

生活改善事業においても農協の産業組合に結婚式場・結婚衣装・祝宴器具を備えた。さらに葬儀一式も整えるという画期的なものとなつた。金戸においてもその結婚式の第一号であつたといふ盛田正吉の結婚式の写真が残つてゐる。

戦後の敬老会にはその衣装を度々借りて演劇をしたものだと思ひ出を語るおばあちゃんがいる。

## 愛国婦人会

地縁的な婦女会の一方では、明治三十年に奥村五百子により設立された愛國婦人会があつた。戦死者の遺族と重傷痍軍人の救護を目的とし、婦人が半衿（はんえり）一掛を節約して会費を出し合い、それを弔慰金として寄贈することを主事業とした。機関誌『愛国婦人』を発行し日露戦時には四六万余の会員を数えた。第一次世界大戦後には、児童健康相談、婦人職業紹介などの社会事業にも着手した。満州事変勃

発後、軍部のつくつた大日本国防婦人会に対抗して婦人報国運動をおこし、地久節奉仕や愛国貯金運動を行つた。

しかし、城端地区では一部の婦人に限られていたようであるが、梅本光子が白いエプロンに爱国婦人会のタスキをかけた写真がある。

白い割烹着を着て「大日本国防婦人会」のタスキを掛けることが、国防婦人会の制服であり、貧富の差無くて誰でもこの格好で公式の場に出ることができたという。また白い割烹着は、国防婦人会の奉仕精神・活動姿勢の表れでもあり、兵営や陸軍病院で洗濯奉仕と、地域に於いては軍人遺族の慰問・奉仕など、多岐にわたつた「銃後の守り」をする女性の優しさを象徴するものでもあつた。

## 国防婦人会

また軍の支持・指導下に組織された婦人団体である大日本国防婦人会があつた。（国防は台所から）のスローガンを掲げ、出征者の送迎、傷痍（じようい）軍人・遺家族の扶助などのほか防空演習も行つた。

当地においても昭和八年九月十七日富山県議会議事堂で大日本国防婦人会富山県支部が創立され、同年一〇月十

五日には早くも城端国防婦人会が結成され、南山田地区でも初代会長に伊東たまが就任した。以後も報土寺坊守木村つよが務め終戦を迎えた。

昭和十九年には農繁期の季節託児所

を金戸専徳寺・上見報土寺・是安浄国寺で開設し、多くは町の婦人であつた

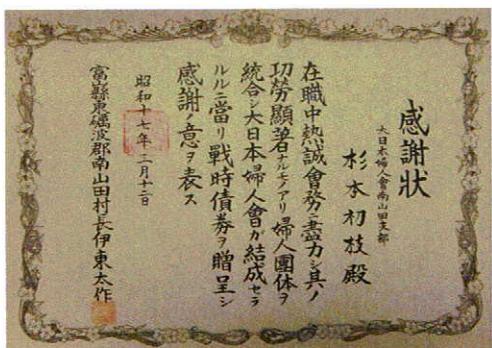
が非農家の婦人も交互に当番制で保母を務めた。

また「米一握り運動」を起こして積立て四百円となり、有志の寄付を立て国民学校に「ピアノ」を寄贈もした。

金戸にも出征兵士家族への慰安会などの写真が残つているが、大日本婦人会に統一される以前の皇紀二千六百年記念軍人家族慰安会が九月十五日に小学校で開催されたものである。

## 大日本婦人会

昭和一六年の太平洋戦争開戦から国内の戦時体制の強化から一切の団体活動が統制され、昭和一七年五月に婦女会・国防婦人会・愛國婦人会が一本化され



て大日本婦人会が創設された。会員は銃後の守りに献身的に活躍した。生活改善・廃品回収・国防献金のほか軍人慰問や遺族家族への労力奉仕をした。

## 婦人会の再開

終戦と共に自然解消されていた婦人団体も昭和二十一年四月十日婦人参政権があたえられた契機に、南山田地区においても機運が高まり、戦前の基盤を生かし、会員数五百名を以て再開された。しかし、戦後の混乱と食糧不足に在つたので苦しい活動が続き、生活に困つている人に金品を贈る救恤事業に協力したり馬鈴薯を数個持ち寄つて講習会の会費に充てたり、「ボロ」の回収収益で会を運営したという。

昭和二十五年に国広の丸山かねが会長に付いた頃より時世も落ち着き会費五十円を徴収して運営が正常化した。昭和二十五年の婦人会には中川節が副会長、支部長は朝日節子であり、会員は五十六名であつた。

金戸では昭和三十年に高桑君子が、昭和三十六年に石崎みさをが南山田地区会長に就任している。また昭和三十三・三十四年には高桑君子が昭和七年から発足した城端地区連合婦人会

長に付いている。

事業としては生活改善事業が婦人会の任務の大きなものであったが、主婦生活の実態調査・家族計画・資源回収・社会見学などが重きをなしていた。また敬老会が校下ごとに開催し、その出し物の練習は一大行事であつた。

昭和四十年代から農協が主体となり農協婦人の生活向上を目指す農協婦人部が結成された。会員は婦人会も農協婦人部も同じであるが、農業婦人を主体とした運動会や生活改善などの活動を推進した。

